

令和2年度
事業報告

社会福祉法人 緑会

緑 会 理 念

- 仁 愛 家族に身になって病める人の心を大切にする
- 信 頼 信頼されるに足る知識と技術を持つよう努力する
- 貢 献 医療・保健・福祉を通じて地域社会に貢献する

令和2年度テーマ

『誰もが安心して暮らせるフレイルの予防』の見える化

基 本 方 針

少子高齢が進む中、地域包括ケアと地域共生社会を目指し、地域で安心して暮らせる為に、サービスを提供するだけでなく、地域との連携を図り、信頼され、求められる存在となるよう、組織や個人として努力する。

重 点 目 標

1 フレイル（身体的・精神的・社会的衰弱）を予防する

- ・筋力チェックとリハビリ（握力・歩行速度）
- ・低栄養の改選と口腔、嚥下機能のリハビリ

2 認知症・障がいを持つ方への対応

- ・認知症や障がいの理解
- ・個々の状態に寄り添うサービス提供

3 接遇の見直し

- ・より良い人間関係の構築（ご利用者・ご家族・職員）
- ・地域に選ばれる介護サービス・施設の提供

実 施 策

1 フレイル（身体的・精神的・社会的衰弱）を予防する

高齢者の中には、閉じこもりなどによる社会的孤立、転倒や低栄養、嚥下状態の悪化などによる身体的機能の低下、意欲や認知機能が精神的に低下するなど、フレイルに気付かず、要介護状態になる事が考えられる。そうならないためには、状態を把握し、早期発見、早期予防することが必要となる。当法人としてあらゆる機会をとおして、計測（握力・5m歩行・立ち上がり動作など）したものやこれまでのデータや身体状態に応じた機能訓練を参考にして見える化し、専門職と連携しながら、身体的・精神的機能維持や社会参加につなげられるよう、フレイル予防に取り組む。

2 認知症・障がいを持つ方への対応

介護サービスを利用する要介護者の主な要因の多くは、認知症であり、今後さらに増える事が予測されている。また、障がいのある方の高齢化も進み、65歳以上に対しては介護保険サービスの利用が優先されることから、高齢・障がいを含めたサービスが求められる。以上のことから、認知症だけでなく障がいに対する理解を深めて、どのようなサービスを提供していけばいいのかなど質の確保・向上を図る。

3 接遇の見直し

接遇は、介護サービスを提供する者として、ご利用者に安心感を与え、信頼を得るために最も基本的で重要なツールである。挨拶や言葉遣い、身だしなみはもちろん、相手の状況や気持ちを理解して寄り添う姿勢が重要となる。介護サービスを提供するプロとして、ご利用者、ご家族はもちろん、自分たち職員間においても、接遇を常に意識し、身につけていくよう、取り組む。

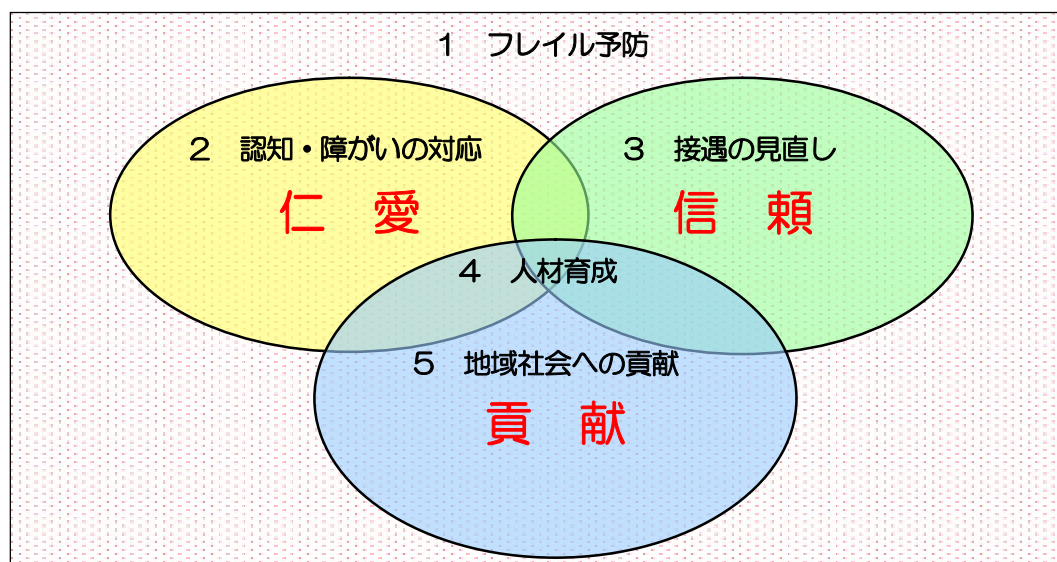
4 人材育成

ご利用者の尊厳を大切にし、心豊かにサービスを利用していただけるよう、今まで以上に職員間の連携を密にし、一体的に支援ができるよう、外国人技能実習生も含め、一人一人が職責に応じた役割を担い、サービスを提供できるよう努力する。

5 地域社会における貢献

当法人の理念に基づく「貢献」活動は、地域社会に対する安全・安心な生活を過ごす上で大切な役割を担っている。また、社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人が地域社会における貢献活動が義務付けられた事から、法人自らが率先して、地域住民の相互のつながりや災害時の福祉支援の含めた、地域福祉の向上のためのサービスを提供していくことが求められている。それに応えるために、介護や医療などの専門技術の提供や積極的にボランティアの受入れや育成する事などで、地域の支援を行っていく。

事業実施図（令和2年度）



1 法人の行う事業（令和3年3月31日現在）

(1) 第1種社会福祉事業

《施設の種類》 特別養護老人ホーム
(指定介護老人福祉施設)
《名 称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《施設長名》 北山 達朗
《利用定員》 98名

(2) 第2種社会福祉事業

《施設の種類》 老人短期入所事業
(指定短期入所生活介護・指定介護予防短期入所生活介護)
《名 称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 2名

《施設の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護・指定介護予防通所介護)
(七尾市介護予防・日常生活支援総合事業（国基準通所型サービス）)
《名 称》 デイサービスセンター せんじゅ
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 25名

《施設の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護・指定介護予防通所介護)
(七尾市介護予防・日常生活支援総合事業（国基準通所型サービス）)
《名 称》 デイサービスセンター なでしこ
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 30名

《施設の種類》 認知症対応型老人共同生活介護事業
(指定認知症対応型共同生活介護・指定介護予防認知症対応型共同生活介護)
《名 称》 グループホーム やくしの里
《管理者名》 中道 信夫
《利用定員》 9名

《施設の種類》 小規模多機能型居宅介護事業
(指定小規模多機能型居宅介護・指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
《名 称》 小規模多機能型居宅介護施設 たかしなの里
《管理者名》 圓山 徹
《利用定員》 25名（内通いサービス15人、泊りサービス9人）

(3) 職 員 数 (令和2年3月31日現在)

☆総職員数 115人 (男性 26人、女性 89人)

職員平均年齢 52.4歳 平均在職年数 8年7ヶ月

a. 入所・短期入所

総数 61人

(正職員 34人、臨時職員 12人、パートタイム職員 15人、(外国人技能実習生は臨時職員に含む))

《内 訳》

施 設 長 1人 (常勤兼務)	機能訓練指導員 1人 (常 勤)
副 施 設 長 1人 (常勤)	管 理 栄 養 士 1人 (常 勤)
事 務 長 1人 (常勤兼務)	看 護 職 員 7人 (常 勤5、パート2)
事 務 員 3人 (常勤2、パート1)	介 護 職 員 39人 (常 勤30、パート9)
生 活 相 談 員 2人 (常 勤)	医 師 1人 (嘱 託)
介護支援専門員 1人 (常 勤)	宿 直 員 3人 (パート)

※資格保有者数 : 看護師 6人、介護福祉士 31人、ホームヘルパー2級・介護初任者研修 10人
(重複所有あり) 介護支援専門員 5人、社会福祉士 1人、社会福祉主事任用 5人

b. デイサービス (せんじゅ・なでしこ)

総数 33人 (入所・短期入所との兼務者 3人)

(正職員 17人、臨時職員 6人、パートタイム職員 10人、委託 (シルバー人材センター運転手))

《内 訳》

管 理 長 1人 (常勤施設長兼務)	生 活 相 談 員 3人 (常勤2、事務長兼務1)
事 務 員 1人 (入所事務員常勤兼務)	管 理 栄 養 士 1人 (入所管理栄養士常勤兼務)
看 護 職 員 10人 (常勤3、パート7)	介 護 職 員 16人 (常勤14、パート2)
作 業 療 法 士 1名 (パート1)	

※資格保有者数 : 介護支援専門員 6人、介護福祉士 15人、ホームヘルパー2級・介護初任者研修 2人
(重複所有あり) 社会福祉主事任用 4人、作業療法士 1名、看護師 5人、准看護師 5人

c. グループホーム

総数 7人 (正職員 4人、臨時職員 3人)

《内 訳》

管 理 者 1人 (常勤兼務)	看 護 職 員 1人 (常勤)
計画作成担当者 1人 (常勤兼務)	介 護 職 員 7人 (常勤・兼務含)

※資格保有者数 : 准看護師 1人、介護支援専門員 2人、介護福祉士 3人、
(重複所有あり) ホームヘルパー2級・介護職員初任者研修 1人

d. 小規模多機能型居宅介護

総数 18人 (正職員 2人、臨時・嘱託職員 8人、パートタイム職員 8人)

《内 訳》

管 理 者 1人 (常勤)	看 護 職 員 5人 (常勤2、パート3)
介護支援専門員 1人 (常勤)	介 護 職 員 10人 (常勤6、パート4)

※資格保有者数 : 介護支援専門員 2人、看護師 2人、准看護師 3人、介護福祉士 2人
(重複所有あり) 介護職員実践者研修 1人、ホームヘルパー2級・介護職員初任者研修 8人

2 役員の状況（令和3年3月31日現在）

(1) 定款上の定数

理事 6名以上10名以内 監事 2名 評議員 7名以上11名以内

(2) 役員名簿

(役職名)	(氏 名)
理 事(7人)	圓山 寛人(理事長)、圓山 恵子、森 光弘、八野田 実、坪内 明、生實 正 北山 達朗
監 事(2人)	浜浦 久男、花村 進一
評議員(8人)	小林 耕輝、清水 了、櫻井 定宗、堀岡 敏幸、堀 和彦 堀岡 俊子、松下 一清、林 繁壽

3 理事会・評議員会

《 理 事 会 》

第1回理事会

日 時	令和2年5月28日(木) 午後6時25分~午後7時25分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	理事7人 監事2人
議 件	議案第1号 定款の一部改正(案)について 議案第2号 就業規則の改正(案)及び在宅勤務規程(案)について 議案第3号 平成31(令和元)年度事業報告 議案第4号 平成31(令和元)年度収支決算報告及び平成31年(令和元)度監査報告 議案第5号 令和2年度補正予算(案)について 議案第6号 現任評議員の退任の申し出に伴う評議員選任・解任委員会」で審議 する新評議員について 報告第1号 千寿苑における電話設備及び緊急呼出装置等の入替工事の入札結果 について 報 告 理事長の業務執行状況について 1 事業運営上生じた重要事項等の報告 ① 科目間流用報告 2 その他 そ の 他

第2回理事会

日 時	令和2年9月3日(木) 午後6時~午後7時50分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	理事6人 監事1人
議 件	議案第1号 令和2年度補正予算(案)について 報告第1号 千寿苑における電話設備及び緊急呼出装置等の入替工事完了報告 報 告 理事長の業務執行状況について 1 職員の出向に係る勘定科目の追加 2 令和2年度4月から7月までの事業報告並びに収支予算執行 状況報告 3 事業運営上生じた重要事項等の報告 ① 科目間流用報告 4 その他 そ の 他

第3回理事会

日 時	令和2年11月5日(木)	午後6時20分~午後6時30分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール	
出席者数	理事7人	監事2人
議 件	議案第1号 「令和2年度第2回社会福祉法人緑会評議員会」で審議する新監事の推薦について	
	そ の 他	

第4回理事会

日 時	令和3年3月25日(火)	午後6時20分~午後7時45分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール	
出席者数	理事7人	監事2人
議 件	議案第1号 せんじゅ、なでしこ、やくしの里、たかしなの里運営規程の改正(案)について	
	議案第2号 令和2年収支補正予算(案)について	
	議案第3号 令和3年度事業計画(案)について	
	議案第4号 任期満了に伴う社会福祉法人緑会選任・解任委員会の委員の選任について	
	議案第5号 任期満了に伴う「令和3年度第1回社会福祉法人緑会評議員選任・解任委員会」で審議する新評議員の推薦について	
	報告第1号 理事長の業務執行状況について	
	1 事業運営上生じた重要事項	
	① 育児・介護休業に関する規則の改正	
	② 科目間流用報告	
	③ 一般事業主行動計画の更新について	
	2 その他	
	そ の 他	

《 評 議 員 会 》

第1回評議員会

日 時	令和2年6月11日(木)	午後6時25分~午後7時45分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール	
出席者数	評議員6人	監事2人 理事3人
議 件	議案第1号 定款の一部改正(案)について	
	議案第2号 平成31(令和元)年度事業報告	
	議案第3号 平成31(令和元)年度収支決算報告及び監査報告	
	報告第1号 現任評議員の退任の申し出に伴う新評議員の選任について	
	そ の 他	

第2回評議員会

日 時	令和2年11月12日(木)	締め切り
場 所	郵送による書面評決	
出席者数	評議員7人	
議 件	議案第1号 「新監事の選任について」	

《評議員選任・解任委員会》

第3回評議員選任・解任委員会

日 時	令和2年5月4日（木）	午前10時~午後5時40分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑	会議室
出席者数	外部委員1人	監事1人 事務局1人
議 件	議案第1号 新評議員の選任について そ の 他	

4 監査

平成31（令和元）年度決算監査

日 時	令和2年5月21日（金）	午後2時30分~午後4時00分
場 所	千寿苑	会議室
出席者数	監事2人	
監査結果	(1)事業報告書は、関連する法令及び通知に従い、当会の事業の実行状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。 (2)財産目録は、関連する法令及び通知に従い、当会の財産を正しく示し、不整の点はないと認めます。 (3)貸借対照表は、関連する法令及び通知に従い、当会の資産と負債の状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。 (4)収支計算書および事業活動計算書は、関連する法令及び通知に従い、当会の収入と支出の状況を正しく示し、不整の点はないと認めます。	

5 令和2年度法人運営の概要

1 フレイル（身体的・精神的・社会的衰弱）を予防する

各部署において、利用者の方々の体調や要望を確認しながら、定期的を実施し、その結果を数値で表し見える化を行った。身体的な運動を実施する上で、新型コロナウイルスの影響もあり、外出せずに、苑内での実施が中心となり、そうした状況でも、楽しんで行えるよう工夫をして対応した。

また、職員間でも「フレイル」について学ぶ機会をつくり、意識の統一化を図った。

2 認知症・障がいを持つ方への対応

外部研修がコロナ禍でほとんど中止となり、当苑において、認知症サポーター養成講座を全職員対象として実施し、認知症の特徴やその対応について学んだ。

また各部署においても、障害や認知症についての知識を学ぶ機会をつくり、実際の現場での介護サービスの提供時に言葉がけや接し方などに活かすよう取組んだ。

3 接遇の見直し

基本的な接遇を見直すことを目的として、各部署では、評価項目を明記し、自己評価や他者評価を行い質の向上を図り、期間を決めて目標や標語などを示して、皆で確認しながら取り組むことにより、年間をとおして一人一人が意識して行動できるようになった。

また、言葉遣いなど利用者への対応の振り返りや、外部研修での知識を取り入れて、内部研修に活用するなど工夫しながら行うことができた。

4 人材育成

コロナ禍と人材不足の状況ではあったが、業務内容の効率化を図りつつ、職員一人一人が役割に応じた業務を徹底することにより、個々のスキルも向上し、より良いサービスの提供へと繋がった。

また、年度当初から予定していた3名の外国人技能実習生の受入れが12月となったが、指導員中心に業務だけでなく、コミュニケーション方法や日常生活などの支援指導を行い、予想を超えた成長が見られた。

5 地域社会における貢献

新型コロナウイルス感染の影響から、実施していた徳田・北大呑・高階地区の「認知症カフェ」の支援や、とくだ祭りへの参加協力、当協会主催で地域との交流を行う「夏祭り」などの行事が全て中止となりました。

そんな中でも実施できる活動として、地域の清掃活動を職員に呼びかけて、千寿苑周辺、一本松公園、通学路で実施したり、ベルマーク、ウエス、古切手などを集めて寄贈したり、要援護者宅の除雪作業など、主体的に出来る事を実施した。

6 年度別法人事業毎の利用者実績数

1 千寿苑(介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)) ※平成 24 年 3 月 21 日より 50 名から 80 名へ増床、平成 27 年 3 月 21 日より 80 名から 98 名へ定員変更

	26 年度	27 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利用延べ人数	26,770 人	32,966 人	32,966 人	30,550 人	33,181 人	30,421 人	30,545 人	29,634 人
稼働率	91.1%	91.9%	92.2%	85.4%	92.8%	85.0%	85.1%	84.6%

2 千寿苑(短期入所生活介護(ショートステイ)) ※平成 24 年 3 月 21 日より 10 名から 20 名へ増床、平成 27 年 3 月 21 日より 20 名から 2 名へ定員変更

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利用延べ人数	7,185 人	5,645 人	2,171 人	2,496 人	3,303 人	3,562 人	3,016 人	2,375 人
稼働率	98.4%	79.3%	296.6%	341.9%	452.5%	487.9%	412.0%	325.3%

3 せんじゅ(通所介護(デイサービス)) ※平成 14 年 10 月 1 日開設 平成 30 年 4 月 1 日より 30 名から 25 名へ定員変更

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
営業日数	308 日	306 日	309 日	294 日	294 日	291 日	294 日	294 日
利用延べ人数	6,636 人	7,256 人	7,902 人	7,197 人	6,480 人	6,133 人	6,344 人	6,639 人
稼働率	72.0%	79.0%	85.2%	80.6%	73.5%	84.3%	86.3%	91.1%

4 なでしこ(通所介護(デイサービス)) ※平成 24 年 3 月 21 日開設 定員 20 名、平成 25 年 8 月 1 日より 20 名から 30 名へ定員変更

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
営業日数	308 日	306 日	309 日	297 日	307 日	305 日	308 日	307 日
利用延べ人数	6,723 人	6,665 人	7,301 人	6,936 人	7,356 人	7,364 人	7,267 人	6,272 人
稼働率	72.7%	72.6%	78.8%	77.4%	79.9%	80.5%	78.6%	68.1%

5 やくしの里(認知症対応型共同生活介護(グループホーム)) ※平成 19 年 4 月 1 日開設 定員 9 名

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利用延べ人数	3,254 人	3,132 人	3,274 人	3,265 人	3,242 人	3,243 人	3,257 人	2,958 人
稼働率	99.0%	95.3%	99.4%	99.4%	98.7%	98.7%	98.9%	90.0%

6 たかしなの里(小規模多機能型居宅介護施設) ※平成 25 年 7 月 1 日開設 登録定員 25 名

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度	令和 2 年度
月平均登録者数	11.8 人	17.3 人	22.5 人	21.7 人	23.2 人	22.8 人	22.8 人	285 人
登録率	47.2%	69.2%	90.0%	86.7%	92.7%	91.2%	91.0%	95.0%

8 各事業の報告

I 千寿苑（入所・短期入所）

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑（看護・介護1）

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
(利用者) ○毎日の生活の中で、利用者ひとり一人が今できている事に、着目・確認して個々に応じた内容を実施していく ※昼食前の嚥下体操の促し 個々に応じて声をかけたり、目で見てわかるようにサポートする ※レクリエーション開催時、参加者に下記の体操を毎回実施する ・グーパー体操 10回 ・声を出す(パンダのたからもの、あっかんべー(舌を出す)) 5回 ・足ふみ 10回 ※対象者を決めて起立練習 5回	- 利用者にわかりやすい様に、耳元で声かけしたり目で見えるようにうちわを使い、職員も一緒に実施 - レクリエーションの流れの一部として位置づけ実施 - 掴まれば立位の取れる方で、職員が意識して関わらないと筋力低下のおそれがあると判断した方を対象に実施	C B B	- 個々に働きかけることで、部分的に行えている方もいる - その日の人員配置により、レクリエーションを毎日行うことができない日があったが、レクリエーション開催時は必ず実施した - 利用者の状態変化で、入院する方や立位が難しくなった方もおられ、対象者を再選択し実施した	- ユマニチュード(見る、話す、触れる、立つ)を意識して利用者に接し、今出来ていない事が継続できるように関わっていきたい - R3年度の目標にも立位訓練を取り入れ継続する

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B90点～75点、C75点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (看護・介護2)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
(職員) ○皆で運動する時間を設けて実施する ※腰痛予防体操及びスクワットをする ・ 業務開始前の腰痛予防体操 (変則業務者も業務開始前などにサービスステーションで行う) ・ 毎日のミーティングの時間にスクワット×5 ・ 小脳を鍛える目の体操×10	・ ストレッチ体操は、業務開始前の申し送り時に毎日行っている ・ スクワットと目の体操は、進行役を決めて毎日時間を決めて行った ・ 小脳では年3回(3月、8月、3月)と小脳力セルフチェックを実施。(目を閉じた一定の姿勢で20秒間立っているか確認)	B	・ 複数人で行う時は実施につながるが、変則勤務者については意識が薄れ、実施している者が決まっていた ・ 最初は立位保持できなかった方でも、確実に少しだが秒数が伸びて改善に繋がった	・ 変則勤務時は、忘れて実施しない時があるため、目にふれるような箇所に貼り、意識して行うようにしていく

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑（看護・介護3）

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
(利用者) 利用者やご家族に、居心地よく安心して生活していただける様に意識して言葉を選んで接する ※①下記の基本的な内容を再確認し、意識して接する事で気持ち良く生活していただく ・ 笑顔 ・ 手をさすりながら等のスキンシップ ・ うなづく等の共感 ・ 目線の高さを合わせる ・ すすんで挨拶 ※②時には丁寧語や方言などを交え、個々に応じて理解していただけるような話し方で接する ※③ご家族面会時などに状況を伝え、安心して預けられる様な信頼関係を築く	・ ※①~②について、毎週曜日を決めて、司会の者が左記を読んで1週間の間に実施できたかを聞き、その日の勤務者全員で評価した。毎週取り組み内容を耳にすることで、職員に意識づけ出来るようにした ・ ※③タブレット面会時、ご家族様に生活の様子や状態などを伝えた。また、生活の様子を手紙にして写真を添えて、春と秋に郵送 ・ 相談支援課に言葉遣い等について評価を依頼した (8・2月実施)	C B	・ 月を追う毎に、少しずつではあるが評価が良くなり、職員の意識づけができてきた ・ 面会時、最近の様子を伝えている。状態の悪い方には、看護師が直接説明している ・ 8月評価と比較すると2月は、少しではあるが職員の意識づけができてきた。また、評価の結果を回覧した	・ 見る・話す・触れる・立つを意識して、安心していただけるように関わっていく ・ 継続していく ・ 他者評価を実施して、職員間で結果を話し合い、接遇に気をつけていく

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (看護・介護4)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
① (職員) どうしてこの言葉をつかうのか？どうしてこの言葉がいけないのか？を考え、意識して取り組むことで、言葉づかひの改善に繋げる ※認知症や障がいを持つ方への苑内研修に参加する ※朝礼時、標語を唱和し、スピーチロック予防を意識する ※言葉づかひについて場面を想定したり、過去の対応を振り返るなど、検討する機会をもつ ※接遇について、職員が交替で毎月の標語を考え、掲示して実践。職員それぞれが考え、設定・評価することで意識することに繋げる ※業務や職員間で、良い事(感謝される等)があった時は、全員で共有し、和やかな環境で仕事ができるような雰囲気づくりに配慮していく	4月：相談支援課に依頼した認知症サポーター養成研修に参加 9月：認知症ケア向上研修を開催 2.3階合同の朝の申し送り時、毎日(日曜日以外)唱和している - 実際の介助時の声掛けやR1年度身体拘束アンケート集計を参照し、毎週曜日を決めて振り返っていた。 - 毎月の標語を決め、サービスステーション内に掲示。月担当職員が1ヵ月後に評価 - 毎日のミーティングで共有するようにしている	C B B C	4月業務時間外に行うと参加率が低い(参加者22名)。臨時及びパート職員が殆ど参加していなかった。9月は業務中に実施することで全員参加に繋がった - 利用者への声かけや職員の会話の中で、意識的に言葉を変えて対応している場面がみられた - なかなか職員に浸透できていなかったが、10月から毎日朝礼時に唱和するようにした事で、職員間で気をつけるようになり、少しずつ改善できた - 日々の関わりの中で小さな出来事でも意識して他職員に伝えることで意見交換できる様になってきた	- 全職員が参加できるように、研修内容や日程など、今後も工夫していく - R3年度も朝礼時に標語を唱和し、スピーチロック予防を意識していく - R3年度はユマニチュードの4つの柱を唱和して意識していく - 今後も継続

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (相談・支援)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
①入居者様が、苑生活の中で役割を持ちながら筋力を維持する ○入居者様の潜在能力や環境に着目し、できる事を尊重しながら支援していく。 ○定期的に握力測定を行い、握力の推移を把握する。	・ 上半期前半で全入居者の意向を調査し、多職種で共有した。意向や特技等の情報をもとに、苑菜園や外出支援、千寿苑食堂等のイベントを開催した。 ・ 8月2月に握力測定を実施。結果を各居室に掲示した。	A	・ 年間を通して全入居者の意向に沿ったイベント等を開催できた。参加された入居者から喜びの声があったのも良かった。 ・ 握力の推移を居室に掲示したが、結果を基に個別のケアを展開するまでには至らなかった。	・ 次年度も意向調査を行い、日常生活を豊かに送られるように支援していきたい。 ・ 握力測定の結果を多職種で共有し、ケアに活かしていきたい
②「心のバリアフリー」を意識して入居者様の支援に取り組む ○職員の認知症・障がいに関する知識向上を含め、入居者様にやさしい施設作りを目指す。	・ 認知症サポーター養成講座の開催 開催日：4/2、4/3 時間：17:45～18:45 対象：入所全職員(29人参加) ・ 認知症ケア向上研修の開催 開催日：9/1～9/5の5日間 時間：15:30～16:00 対象：2階3階看介護職(47人参加)	B	・ 認知症に関する基礎を学ぶ機会を設ける事で、職員の「認知症の方への接し方」の向上に繋がったと思う。	・ 次年度も認知症に関する研修を行い、引き続き対応力の向上に努めたい。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑 (機能訓練)

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1.利用されている方がリラックスして生活を送っていただけるような支援	・安楽な姿勢で過ごせるように修正する。 ・意識しながら丁寧な言葉使いと説明。 ・外部の勉強会の参加。 ・利用されている方の希望に添えるように訓練に幅を持たせる。 ・注意点があれば報告して、共有する	B	・訓練時に安楽な姿勢で過ごせるように修正できている。 ・修正事項は、ほのぼのや申し送りノートに記入している。 ・担当介護職にカンファレンスもしくは直接修正事項を報告している。	担当介護職に報告は出来ているが、他職員に伝わっていないことがよくあり、適切なケアができていないことがある。 来年度は担当以外の職員にも伝えられる場を作っていきたい。
2.認知症・障害を持つ方への対応	・認知症や障がいを持たれている方に特化した勉強会に参加する。 ・普段から利用されている方の身になり、良い人間関係を構築できるように心がける。	B	・食事介助にて、良い介助方法があれば、職員に報告している。 ・会話している中で言葉を選ぶように心がけている。	介助方法を報告のみにせず、ほのぼのや申し送りノートにも残すようにしていく。報告できる場も作っていきたい。 説明時にわかりやすい言葉で伝えていく。
3.フレイル予防の見える化	・介護職員の立ち上がり測定のデータの共有 ・相談員の握力測定のデータの共有 ・共有したデータを見える化 ・注意点があれば報告して、共有する	B	年度初めからの 5m 歩行が実施対象者が一人のみとなっている。 新たな対象者を追加していく予定。	対象の方たちが病気やけがにより、能力低下に陥ってしまったため、新たに対象の方たちとれ替えることが多かった。 怪我等を起こさないためにも利用されている方たちの能力等の報告できる場も作っていきたい。
4. 地域住民の介護力・健康寿命の向上を図る。	・介護予防活動や地域のカフェサロンを通じて地域住民の身体能力の維持向上と要介護者への適切な介助方法の講習会の実施。 ・体操を通じて、利用されている方のやる気を引き出し、日常生活の一部として体操実施につなげる。 ・カフェ参加時に実施する体力測定で、利用されている方のフレイル度数の見える化。	C	今年度は 1 回のみだったが、講習会に講師として参加できて介護支援の大変さをお伝えすることができた。 介護予防カフェは参加できてなかった。	来年度も年に一回と言わず、機会があれば講座があれば、講師として参加していきたい。 介護予防カフェも地域貢献活動の一環として再開されれば参加したい。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度 入退所状況

【入所】

入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
女性	2	0	1	2	1	2	1	3	5	1	3	1	22
合計	2	0	1	2	1	2	1	4	5	1	3	1	23
【入所前所在地】 在宅： 12人 医療機関： 4人 その他施設： 7人													

【退所】

退所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	5
女性	1	0	1	1	1	0	3	3	2	2	3	2	19
合計	2	0	1	1	1	0	5	3	3	3	3	2	24
【平均年齢】 93.4歳（ 68歳～ 108歳） 【退所理由】 逝去： 20人 長期入院： 4人 その他： 0人 【平均在籍日数】 3年 5ヶ月（最長 8年11ヶ月、最短 0年 2ヶ月）													

令和3年3月31日現在 入所利用申込状況

	自 宅	病 院	老人保健 施 設	グループ ホーム	その他 施 設	その他	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	1	0	0	0	0	1
要介護3	15	3	6	5	2	0	31
要介護4	8	6	3	3	1	0	21
要介護5	8	8	0	5	1	0	22
合計	31	18	9	13	4	0	75
【性 別】 男性；21人、女性；54人 【平均待ち期間】 1年 6カ月（最長；10年 0カ月、最短； 0年 0カ月）							

令和２年度 千寿苑内部研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
4/2.3	認知症サポーター養成 ① 認知症に関する正しい知識の習得 ② 認知症の方及びその家族への「応援者」育成 ③ 地域における認知症の方への「支援者」育成	1F 会議室 (講師：キャラバンメイト有資格職員)	21 人
5/28～ 5 日間	食中毒予防	2F デイルーム	41 人
6/3～ 3 日間	フレイルとは？	2・3F デイルーム	35 人
8/6～ 3 日間	身体拘束 (事例を基にしたグループワーク)	2F デイルーム及び 地域交流ホール	全職員
8/18～ 6 日間	記録の書き方の実践①:5W1Hに基づいて(インシデントに繋がる場面を想定した写真を見て)	2・3F デイルーム	延べ 72 人
9/1～ 5 日間	認知症ケアの向上	2F デイルーム (講師：キャラバンメイト有資格職員)	全職員
10/8	高齢者介護施設における感染対策 (施設としての対策の基本)	地域交流ホール (講師：日本環境感染学会)	6 人
12/10～ 13 日間	誤嚥を発見した時～心肺蘇生(AED使用まで) 動画視聴と実技	2F デイルーム	全職員
12/28～ 3 日間	感染予防 (ノロウイルスが発生した場合の対応)	2・3F デイルーム	延べ 23 人
12 月～1 月 6 日間	記録の書き方の実践②:5W1Hに基づいて (インシデントに繋がる場面を想定した写真を見て)	2・3F デイルーム	延べ 62 人
1/13～ 3 日間	ガウンテクニック (新型コロナウイルス感染に備えて)	2・3F デイルーム	全職員
1/22	口腔ケアと食支援のポイント(リモート)	2F 医務室	3 人

令和2年度 千寿苑内部研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
2/19～ 3 日間	身体拘束	2F デイルーム	全職員
2 月中	手洗いの実践 (チェッカーを使って)	2・3F 手洗場	全職員
3/24. 26	職員の倫理について	2F デイルーム	看・介護職員：7 人 外国人実習生：3 人 R3 年度人職予定者：1 人
3/24	フレイルについて	2・3F デイルー ム	看・介護職員：11 人 外国人実習生：3 人
1/27～ 7 日間	危険予知	2F デイルーム	外国人実習生：3 人
3/23	感染予防について	2F デイルーム	外国人実習生：3 人 R3 年度人職予定者：1 人
3/26	身体拘束について	2F デイルーム	外国人実習生：3 人 R3 年度人職予定者：1 人

令和2年度 千寿苑外部研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者
R2. 8 月～ 10 月	介護職員等による喀痰吸引等の 実施のための研修	恵寿総合病院	菊澤 敬一
R2. 9 月～ 11 月	介護支援専門員 更新研修	県研修センター 外	寺 貴志香
R2. 12/15	応援職員のための感染防止研修	県地場産業復興セン ター	高野 幸恵
R2. 12/6	座位が変われば暮らしが変わる	県女性センター	松田 陽司
R3. 2/11	看護職勤務環境改善支援事業 (リモート)	公立能登病院	北野 和子 高野 幸恵

令和２年度年間行事等事業実施報告

月	事業(行事)	地域交流	見学
4月	花見		
5月	百歳のお祝い		
6月			
7月	海ドライブ		
8月	夏祭りみたいに楽しまん会		
9月	利用者の地元へドライブ		
10月	せんじゅえん食堂 敬老会		
11月	紅葉ドライブ		
12月	望年会		
1月	苑内初詣 百歳のお祝い		
2月			
3月	おはぎ作り		
その他			

Ⅱ 栄 養 課

令和2年度目標に対する自己評価

No. 1

部署 千寿苑栄養課

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1. 「フレイルの予防」 ●おいしく楽しく食事する。 ・「食の楽しみ」や「食べる楽しみ」を引き出すことで食事の全量摂取を継続し、栄養状態の維持に繋げる。 2. 「認知症・障がいを持つ方への対応」 ●利用者様の身になって、個別対応を重視する。 ・利用者様やご家族の思いや状態に寄り添い、栄養管理をおこなう。 3. 「接遇の見直し」 ●思いやる気持ちを持って対応する。 ・どんな状況であっても、平常心を保ち、対応する。	管理栄養士1名となり、業務の効率化と栄養管理の充実にむけての体制づくりに努めた。 ①荷重平均を算定し、10/1 約束食事箋と食品構成表を改訂。 ②食札作成をデジタル化すると同時に、禁止食や個人対応の見直し。 ③調整食の見直し。 ④栄養補助食品の見直し。 ⑤食形態の見直し。常菜軟菜の一本化。 ⑥11/9～ハーフ食、12/14～きざみ食導入。 ⑦栄養管理ソフト(ほのぼの)の活用。 ⑧療養食の内容見直しと必要性を検討。 ⑨利用者様の口腔内および身体状況の把握。 ⑩入所前の状態確認や嚥下評価に同行。 ⑪苑菜園で収穫した野菜の調理や食イベントへの関わり。クッキングの継続。 ⑫緊急時の備蓄食品の整備(3日分)と提供訓練の実施。	全体評価 A	①～⑦栄養管理がスムーズに行えるよう、利用者様の状態を把握し、給食管理業務を見直した。また、栄養課内で利用者様の情報を共有し、必要な個別対応ができた。 ⑧療養食の献立を見直し、入所者様の状態に応じて必要性を配置医に上申。(加算対象者：R1年度53%⇒R3年3月80%) ⑨⑩利用者様の状態を多角的に把握し、ニーズに合った食事提供に努めた。 ⑪コロナ禍で、イベントや行事が中止・縮小されるなか、毎日の食事で季節を感じ、楽しんで召し上がっていただけるよう献立を工夫した。また、感染対策をしながらクッキングを継続、苑内での食イベントも開催できた。 ⑫備蓄食品提供訓練を2回実施。(2月みそ汁、3月αほたて粥)	・栄養管理の充実(栄養状態を見える化し、低栄養状態の改善につなげる。) ・令和3年度介護報酬改定における栄養関連項目に対応できる体制を作る。 ・緊急時食事提供マニュアルを周知する。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和２年度 事業所外研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
R3. 3. 25	令和３年度介護報酬改定(栄養関連)の背景とポイント	オンデマンド配信	１名

令和２年度 事業所内研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
R2. 4. 2	認知症サポート講座	地域交流ホール	加藤ゆかり 鎌田 裕子
R2. 8. 6	身体拘束廃止勉強会	３階新館デイルーム	加藤ゆかり
R3. 1. 13	感染対策勉強会	２階デイルーム	鎌田 裕子

Ⅲ せんじゅ・なでしこ（デイサービス）

令和2年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ1

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
① フレイルの予防 筋力の見える化	- 定期的にバーサルインデックスを測定し、ADL の評価を行う。 - バーサルインデックス測定で得られた値を用い、個々に足りないリハビリメニューを補い、ADL 低下を防ぐ。 - 日々のレクリエーションで、筋力トレーニングを増やす		加算者の筋力測定を行っている状態に合わせ、訓練変更している 外出レクを企画し、活動範囲を広げている 運動会等体を動かす機会を提供している	空き時間を利用し、体操の機会をふやす コロナの影響で、外出が難しいので、苑内で楽しんで体を動かす機会を作る
低栄養状態の改善	- 嚥下体操をする - 口腔ケアをする - 採血データや体重減少・食事摂取量などで、低栄養状態を把握する	B	食前に嚥下体操・唾液腺マッサージ・食後に口腔ケアを行っている 集団での嚥下体操が困難な方には、個別で行っている 採血データ確認・体重測定毎月・食事摂取量確認を行い、随時他職種で相談し対応を検討している 栄養士・CM にその都度報告し、ご家族・主治医にも情報提供している ご家族とも情報共有を行っている	来年度も継続し、重症化予防や稼働率の安定を図る

※評価について ⇒自己採点方式 (100 点満点で評価：A100 点～90 点、B89 点～75 点、C74 点～60 点、D60 点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ2

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
② 認知症・障害を持つ方への対応	・ 研修に参加・DVD の活用 ・ ひもときシートの活用 ・ 興味・関心チェックシートの活用 ・ 個々の障害と必要な支援を共有 ・ 他職種協働	B	オンラインで研修に参加している ひもときシートを行い、周辺症状に働きかけている 事業所内研修に参加している 伝達講習を行い、周知している バーセルインデックスを活用し、 個々の障害と必要な支援を他職種で共有している	引き続き、オンラインやDVD で研修に参加し、利用者様がこちよい生活ができる方法を考える。
③ 接遇の見直し	・ 接遇研修に参加・勉強会の実施 ・ 接遇チェックリスト自己評価を行い、意識付けを行う ・ 一人一人が意識を高め、注意し合える環境づくりを行う ・ 職員間で働きやすい環境を作る	C	朝のミーティングでスローガンを掲げている 自己評価を行った(年2回) 職員間の挨拶・敬語・言葉遣いに気をつけている 笑顔で褒め合う努力をしている	引き続き、ミーティングでスローガンを掲げる 引き続き、働きやすい環境を作るため、各自が努力する 相手の立場に立って考え、言葉使いなど気をつける

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ3

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
利用者増への取り組み	- SSや入院でお休みする方の補充 - 臨時利用・利用日追加の検討	C	CMにご協力いただき、臨時利用・追加利用などの情報を頂き、利用している。 空き情報の報告を、直接顔をみてCMにお知らせし、タイムリーな情報を頂いている 利用者のサービス向上に努めている	継続できるよう努める 引き続き継続 思いを尊重し、できるだけ沿えるよう努める

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和２年度 通所介護内部研修等実績

日 付	研 修 名 等	場 所	参加者数
8/7	身体拘束廃止勉強会	地域交流ホール	23 名
10/8	手指衛生と個人防護具	地域交流ホール	3 名
11/9	事故防止について	なでしこデイルーム	7 名
11/10	認知症について	なでしこデイルーム	6 名
1/25	ガウンテクニックの実演と手指消毒	せんじゅデイルーム	17 名
2 月	火災につながる危険なポイントを学ぼう	せんじゅデイルーム	14 名
3/22	身体拘束廃止委員会第２回勉強会	地域交流ホール	13 名

令和２年度 通所介護外部研修等実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
2.3 月	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程初任者研修	福祉総合研修センター	渡瀬 清治

令和２年度年間行事等事業報告書

部署名：デイサービス

月	事業(行事)	地域交流	ボランティア・見学
4月	お花見ドライブ		
5月	母の日カーネーションプレゼント 100歳お祝い		
6月	ドライブ 父の日バラプレゼント		
7月	ドライブ		
8月	夏祭り		
9月	マッサージ		
10月	運動会		
11月	ドライブ		
12月	年忘れ会		
1月	新年の会		
2月	節分豆まき		
3月	ひなまつりの集い		

Ⅳ やくしの里（グループホーム）

令和2年度目標に対する自己評価

部署 グループホームやくしの里1

計画と方法・取組	1年間の具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1: 現在の体力の維持と個別で向上を図る	- 毎日昼食前の嚥下体操を実施。ゴムバンド体操は3日に1回実施。 - 天気の良い日の畑仕事、散歩。	B	- 毎日昼食前に嚥下体操実施。 - ゴムバンド体操も3日に1回実施できている。 - 入退居が4名、退居理由として高齢と病気による方が2名 - 認知症進行の方2名 - 新しく入居された方々は畑仕事を積極的にされている。 - コロナウィルス感染予防の為、買物同行は一切行わず。 - 催事、地域行事も中止の為、外での交流は行えず。 - ドライブ近場のみ実施	- 毎日の口腔体操とゴムバンド体操の継続。 - デュアルタスク（ながら運動）の取り入れ。 - 畑耕地の拡張 3密を避けドライブ。 - コロナウィルスの流行状況を見極め外出の援助。
2: 十分な栄養を摂取することで健康な身体づくり	- 旬の食材の提供 - 行事食の提供 - 市内の飲食店より弁当、オードブル購入し提供	B	弁当、オードブルなど普段と違う食事を提供することで入居者の方からは好評。	- コロナウィルス感染予防の為外食はしばらく中止。 - テイクアウトの継続 - 流行状況を見極め、外で食事する機会を作る。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価 : A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 グループホームやくしの里2

計画と方法・取組	1年間の具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
3: 施設の中で役割（仕事）を持つことで生活に張りを持つ。	・入居者の方の適性を考慮し家事を当番制で行う。	A	・ 家事の当番制は掲示することにより入居者の方々が進んで行動されるようになった。 ・ 毎日全員がなんらかの手伝いをされている。 ・ 入居者同士の仕事の格差がみられた。	・ 入居者の中で手伝いをすることが浸透したので掲示は中止する。 ・ 随時手伝いの声掛け。 ・ 偏らない仕事の振り分け。
4: 仕事にやりがいを持てるよう、研修などにより知識を学び入居者支援と他の職員への還元、入居者の喜びが職員の喜びに循環する体制をつくる。	・ 外部への研修は1件。	D	・ 施設内研修はミーティング時実施。 ・ オンラインでの研修が多く、参加にいたらず。	・ オンライン研修への対応。 ・ 外部研修への参加を個々に打診する。
5: 負担の少ない勤務体制と十分な休養、リフレッシュできる有給休暇の取得で仕事に対する意欲を持つ。	・ 日勤3人体制の勤務表作成 ・ 公休と有給休暇5日消化 ・ 連続勤務の際は半日勤務を入れる	D	・ 人員の不足と公休の消化のため午後より2.5人体制となる日や2人体制での超過勤務で対応する ・ 職員の体調不調による勤務の変更で入居者の方へ入浴が週1回になることがあった。	・ 現状の人員で入居者の生活に しわ寄せがいかない勤務体制の再構築。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価: A100点〜90点、B89点〜75点、C74点〜60点、D60点以下)

令和2年度目標に対する自己評価

部署 グループホームやくしの里3

計画と方法・取組	1年間の具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
6: 職員間のコミュニケーションと良好な人間関係の構築	・ 個人面談は1回実施。 ・ 申し送り時、ミーティング時での意見交換。 ・ 休憩時間の活用。	C	・ ミーティング時の意見交換で業務の統一。 ・ 休憩時間内の意見交換。	・ 上半期、下半期に1回ずつの個人面談の実施。

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価 : A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和２年度 事業所内研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者
4 月 15 日	認知症について	やくしの里リビング	全職員
8 月 19 日	接遇マナーについて	やくしの里リビング	全職員

令和２年度 事業所外研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者
9 月 28 日	高齢者権利擁護等推進事業 身体拘束廃止実務看護職員研修		福井 早苗

令和2年度年間行事等事業報告書

部署名： グループホーム やくしの里

月	事業(行事)計画	地域交流	ボランティア・見学
4月	7(火) 花見やくしの里駐車場 19(日) 桜餅作り	大泊朝市 不参加 大泊町春祭り中止	4(土) 誕生会 1名 北国特選会中止
5月	青柏祭見物中止 14(木) 特別食 はま寿司 26(火) 避難訓練	大泊朝市 不参加	徳田の民話中止
6月	5, 6(金・土) 菖蒲湯 22(月) 特別食 サンドイッチ 3(水) ワックスがけ	大泊朝市 不参加	21(日) 誕生会 1名
7月	7(火) 七夕祭り 水羊羹作り 21(火) 特別食 鰻弁当 千寿苑夏祭り見学中止	大泊朝市 不参加 アットホームコムド様交流会 中止	
8月	14(金) 花火 15(土) 流しそうめん	大泊朝市 不参加	花嫁のれん館見学中止 24, 25(月・火) 田鶴浜高校介護実習2名
9月	10(木) ワックスがけ 23(水) お彼岸おはぎ作り	大泊朝市 不参加 南大呑地区敬老文化祭中止	能登里山里海ミュージアム見 学中止
10月	徳田祭り中止	大泊朝市 不参加 コムドフェスタ 不参加	菊花展中止 千寿苑獅子舞中止
11月	12, 13(水・木) 紅葉ドライブ 20(金) 特別食 はま寿司	大泊朝市	
12月	9(水) ワックスがけ 16(水) クリスマス会 21, 22(月・火) ゆず湯 31(金) おせち作り年越しそば	大泊朝市	
1月	1(金) おせち料理 書初め 2(土) カルタ 7(木) 七草粥	大泊朝市 不参加	8(金) 誕生会 2名
2月	3(水) 恵方巻作り 豆まき 18(木) 鍋パーティー 24(水) 災害時訓練	大泊朝市	9(火) 誕生会 2名 21(日) 外部評価
3月	3(水) ひな祭り会 10(水) ワックスがけ 19(金) お彼岸おはぎ作り	大泊朝市中止	23(火) 誕生会 3名

外部評価結果

(令和2年度)

① 事業者情報

名称 グループホーム やくしの里	種別 グループホーム
---------------------	---------------

② 総評 特に評価の高い点 (項目番号＝外部評価項目番号)

I.理念に基づく運営 II.安心と信頼の関係づくりと支援／項目番号(6)
■ 面会時・介護計画更新時に家族の意見・要望を引き出せるよう、文書で生活状況(毎月:食事・入浴・排泄・健康面)を伝えたり、ホーム便り(2ヶ月毎:写真メイン)で暮らしぶりを伝えている。又、無記名の家族アンケート調査を2年毎に行い、改善活動に繋げている。家族が本音を書けるよう、アンケートの送付先は外部評価機関にしている。
III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント／項目番号(11)
■ 同グループ内のクリニックをかかりつけ医とし、訪問診療中心の健康管理体制を整えている。クリニック医師とは24時間の連携体制(随時の相談、緊急時対応可)が確保されている為、職員・利用者・家族の安心に繋がっている。
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援／項目番号(23)
■ 利用者が快適に過ごせるよう、温度・湿度管理に配慮したり、加湿器・空気清浄機(複数台)を設置している。日当たりの良いリビングの大きな窓から自然の風景(山の景色、畑の様子等)が眺められ、季節感を十分に味わう事が出来る。リビングから居室に向かう廊下に腰掛ける場所を設け、他者と離れて寛いだり、仲の良い人同士で会話を楽しむ空間を確保している。ホーム内のWifiも整備されている。

※弊社独自の評価票です。参考にして頂ければと思っております。

エイ・ワイ・エイ研究所

令和2年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790200032		
法人名	社会福祉法人 緑会		
事業所名	グループホーム やくしの里		
所在地	石川県七尾市黒崎町ヲ部 109 番地		
自己評価作成日	令和3年 1 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓この URL をクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	エイ・ワイ・エイ研究所
所在地	金沢市無量寺 5 丁目45-2 サンライズⅢ106 号
訪問調査日	令和3年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは七尾より氷見方面へ向かう国道 160 号線沿いの海と山に囲まれた自然豊かな場所にあり、現在では能越道大泊 I C に近く交通の便も良くなりました。春には敷地の隣にある桜が見え、ウグイスやキジの鳴き声が聞こえ、四季の移り変わりを楽しむことができます。キッチンオープン式対面キッチンで、入居者様が気軽にキッチンに立つことができ、中庭では畑で野菜づくりを行っています。入居者様全員での外出や季節ごとの行事を多く取り入れ、また個別の要望にもできる限り対応させていただき、お一人お一人が楽しみのある生活が送ることができるよう支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは法人理念のもと、「利用者を個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」をホーム理念として掲げている。又、単年度の目標(今年度は①フレイル予防 ②ユマニチュード)を定め、日々の実践に取り組んでいる。その人らしく暮らせるよう、介護計画は利用者一人ひとりの「日常生活での役割」「出来る事・楽しみの継続」「健康管理」を重視した目標を設定し、日々の支援に繋げている。ホームでは家族の声を大切にしており、介護計画作成・更新時は「意向確認用紙」を送付(返信用封筒同封)し、家族の意見・要望等も十分に汲み取るようにしている。家族の意見・要望を引き出せるよう、毎月文書で生活状況(食事・入浴・排泄・健康面)を伝えたり、ホーム便り(2ヶ月毎:写真メイン)で暮らしぶりも伝えている。健康管理面では同グループ内のクリニックをかかりつけ医とし、訪問診療中心の体制を整えている。又、同グループ内の病院や母体の特養施設をはじめとする法人全体の十分なバックアップ体制(終末期支援、災害時サポート、スキルアップ研修等)も確保されている為、利用者・家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59 で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)		1. ほぼ全ての利用者が	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人やグループホームの理念とは別に、職員全員で作成した現場の理念があり、事務室内に掲示し確認することで、職員が常に意識して実践に務められるようにしている	法人理念のもと、ホームの理念「利用者を個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」を掲げている。理念は玄関・事務所内の掲示やミーティング時の話し合いを通じて職員への周知を図っている。又、単年度の目標(今年度は①フレイル予防 ②ユマニチュード)も定め、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町会費を納めている。地域の行事は新型コロナウイルスのため全て中止となる。隣町の朝市には定期的に行き、馴染みになるよう努めている。散髪等で希望があれば地元の美容院、理髪店を利用している。2ヶ月に1回やくしの里だよりを地元町会の回覧板に載せていただいている。地元の小学校、保育園は閉校となり交流はない	地域住民の一員として町会に加入している。毎月、隣町の朝市に買い出しに出向き、顔馴染みの関係を構築している。ホーム便り(2ヶ月毎)を町内の回覧版に添付してもらい、ホームの活動を近隣住民に紹介している。平時は地域行事(春祭り、敬老会等)にも出来るだけ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事に参加することで、町会長・民生委員などの地域の方々との交流を深め、理解に努めている。年に1回、グループの広報誌が地元の各世帯に配布されている。		

4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、町会長、民生委員、行政の方々にホームの実態を報告しており、意見をいただき、今後の課題として取り組んでいる。	家族代表、民生委員、町会長、市担当者等をメンバーとし、運営推進会議を行っている。ホームの活動・行事報告後に率直な意見交換を行い、提案・助言等をサービスの向上に活かしている。議事録は全家族に送付し、内容を周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度開催される事業者連絡会には人員の不足の為参加出来ておらず。運営推進会議は2ヶ月に1回行っており市の担当者の方と相談ができる関係作りができています。また、なにか連絡事項などがあれば市より連絡が入る体制である。	運営推進会議やメールでの情報交換を通じ、市担当者との連携強化を図っている。運営上の疑問点があれば随時相談し、必要な助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30 年度より身体拘束の適正化のため身体拘束委員会を設置。3カ月に1回実施している。事例を検討している。また母体である千寿苑にて勉強会開催時に参加している。玄関との間の扉は防犯上施錠している。	身体拘束委員会(3ヶ月毎:職員全体参加)での事例検討を通じて理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。無意識に出てしまうスピーチロックに関しては管理者が都度、注意喚起して意識づけを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者より、月1回のミーティング時などに言葉遣いや接し方について説明している。入居者と家族、入居者と職員の関係には十分注意を払っている。令和2年9月に看護師のための身体拘束について1名研修参加し、他職員への還元。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等へは参加出来ておらず。オンラインリモートでの研修案内あるも活用できておらず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は家族の希望により施設内で締結することが増えている。入居後1週間で退居された方もいたが特に問題はなかった。料金の改定の際は郵送にて事前に案内を送付している。家族からの問い合わせについては電話やメール、無料通信アプリを活用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、周知不足か入居者・家族の方に投書はない。面会時にて直接話を伺い、現況についてや今後について相談しやすい体制としている。また、運営推進会議に家族の代表者に参加していただき、その他の会議参加者と共に事業所運営に反映できるように配慮している。	面会時・介護計画更新時に家族の意見・要望を引き出せるよう、文書で生活状況(毎月:食事・入浴・排泄・健康面)を伝えたり、ホーム便り(2ヶ月毎:写真メイン)で暮らしぶりを伝えている。又、無記名の家族アンケート調査を2年毎に行い、改善活動に繋げている。家族が本音を書けるよう、アンケートの送付先は外部評価機関にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を中心とし、毎朝の申し送り時や月1回のミーティング時に意見交換を行っている。その中から緊急性の高い事項や、容易に取り組めるものなどはすぐに取り組み、職員のモチベーションを維持できるように留意している。	管理者も現場業務に従事しており、普段から雑談を交えて職員と意見交換を行っている。又、毎日の申し送りや毎月のミーティング時に職員の意見・提案を吸い上げ、運営面の改善(休憩時間の確保等)に繋げている。又、職員の本音を聴く場として、個人面談の機会も設けている。	

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年次年度の事業計画作成時に職員と話し合い担当を決めている。以前は年 2 回、個人面談を行い意向の確認していたが出来ていない。職員の向上心に繋がる取り組みは出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に研修カードを配布している。法人内の講演会に一部職員が参加。研修案内を掲示しているが希望する職員は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会には参加出来ておらず。交流の機会、ネットワーク作り、勉強会も行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の段階で、本人や家族より十分に話を聴くようにしている。入居初期の段階では特に気を配り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や契約時にも十分話を聴き、利用中も本人・家族との関係を築きながら、本心が聞けるよう努めている。		

17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用の頃は、居宅の介護支援専門員に状況を報告し相談しながら対応している。また、入居前に本人・家族に面接し意向を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、良い意味での家族のような関係に努めている。また、毎日 1 回家事のお手伝いをさせていただくことで生活に役割を持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居中のご様子を郵送にてお知らせしている。受診の付き添いを依頼したり少しでも関わりを持っていたい。今年度はコロナウイルス感染予防の為、家族交流会、クリスマス会など家族参加の行事は行っていない。タブレット端末を利用したリモート電話を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染のため、家族以外は面会を原則中止としている。以前は自宅の祭事等で外出できていたが、祭事自体が中止となる。	平時はホームでの面会を歓迎したり、ホーム行事(家族交流会、クリスマス会等)を通じて家族との繋がりが途切れないようにしている。コロナ禍でも玄関で面会できるように、又、オンライン面会ができるように整備している。又、平時は出身地区の祭礼見学等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きの入居者が、他の入居者の世話をすることがあり、その時は職員は見守りしている。トラブル時は双方に注意し、どちらの味方にならないようにしている。また、職員が間に入り、難聴の入居者同士が話せるよう配慮している。相性の検討と随時席替えを実施。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入居された本人への面会を行っている。退居時には家族に何かあれば相談させていただく旨お話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位での検討を前提としている。本人の性格やこれまでの生活歴を配慮することに努めている。その時・その日の要望については、対応できる時は即対応し出来ない場合は調整しできる限り対応できるよう努め、困難時は本人が納得できる理由を含め説明している。	日常会話の中で、利用者の意向・思いを聴くようにしている。利用者の思いを聴いた際は、可能な範囲で対応するようにしている。意思疎通が難しい場合は生活歴を参考に、職員側から働きかけて思いを引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や契約時に情報収集し、入居後は本人との会話や家族からその都度聞きだし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の毎日の申し送りにて、個人の状況を把握し、できること等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	見直し時には必ず本人と家族に要望を聞き、ミーティング時や日々の業務で発見したことを話し合い、反映できるよう努めている。また、本人の担当介護職員と介護支援専門員が話し合いをするようにしている。	その人らしく暮らせるよう、「日常生活での役割」「出来る事・楽しみの継続」「健康管理」を重視した介護計画を作成し、日々の支援に繋げている。計画更新時は「意向確認用紙」を家族に送付（返信用封筒同封）し、家族の意見・要望等も汲み取るようにしている。サービス担当者会議で全職員の意見も踏まえて、モニタリングを行っている。	

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や感情を具体的に記載しているが、十分に記載されていない時や同じような内容ばかりとなってしまうことがある。記録は介護計画見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が仕事で受診の付き添いができないときは、職員が対応している。理容店や買物、自宅への外出等、個人の対応に勤めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の居宅支援事業所の介護支援専門員や家族と情報の交換や報告を行ない、連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や受診が継続的に行われている。また、入居者により、直接かかりつけ医への受診を希望される場合は対応している。	同グループ内のクリニックをかかりつけ医とし、訪問診療中心の健康管理体制を整えている。クリニック医師とは24時間の連携体制(随時の相談、緊急時対応可)が確保されている為、職員・利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師1名がおり、申し送り時に入居者の体調を報告している。入居者の体調に変化があるときは医師への上申を行っている。		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、相談員、看護師などと十分に連携を図っている。管理者が直接病院に訪問することで状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績はなし。重度化、もしくは終末期に関しては法人全体でサポートする形となっていることを入居時に説明している。身体状況変化時には本人・家族の意向を伺い、管理者、医師、家族を交えて方針を検討している。	終末期は同グループ内の病院・又は母体の特養施設で対応する方針となっている。重度化によりホームでの生活が難しくなってきた場合（医療依存度が高い、一般浴での入浴が不可等）は三者間（管理者・医師・家族）で協議し、今後の方向性を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティング時に、対応の訓練を行っている。また、実際に急変や事故が発生した後で職員同士で意見の交換を行ない以後の対応についての知識の習得に努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	マニュアルを作成し、連絡体制ができていて、事故発生時の役割分担を取り決めてある。施設近隣に居住する職員は2名。	急変時の対応マニュアルや同グループ内のクリニック・病院への連絡・相談体制を整えている。同グループ内でAED講習があれば、参加するようにしている。	利用者の生命に関する緊急事態（誤嚥・窒息時、心肺停止時等）に迅速・適切に対応出来るよう、計画的・継続的なロールプレイ訓練の実施が期待される。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	円山病院、えんやま健康クリニック、千寿苑と支援体制をとっている。	同グループ内のクリニック・病院や母体の特養施設をはじめとする法人全体の十分なバックアップ体制が確保されている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	近隣に居住する職員が2名。他の職員は駆けつけるのに20分以上かかる。緊急時の対応が遅れる要因となっている。	1ユニット＝夜間職員1名の配置となっているが、緊急連絡網による医師・管理者への相談体制や近隣在住職員の応援体制を整えている。	近隣在住のホーム職員が少数の為、近隣地域に在住している法人職員全体の応援体制の整備が期待される。

38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ホームで避難訓練を実施している。地域自体が高齢化のため協力体制を築くことより法人全体での支援体制を整えている。R3年1月の停電時は、千寿苑へ一時的に避難。	防災マニュアル・防火設備一式を整え、年2回(夜間想定含む)、火災想定中心の総合避難訓練を実施している。今年度はコロナ禍の為、ホーム独自で行っているが、平時は消防職員立ち会いのもとでの訓練も実施している。又、実際に遭遇した災害(断水、停電等)の経験を活かし、その後に対応強化訓練を実施している。災害時は母体の特養施設の十分なバックアップが確保されている。防災グッズや備蓄品はリスト化し、適切に保管・点検している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難時の荷物を整備している。また、水・紙類・毛布・オムツ類の備蓄があり、スプリンクラー・火災報知機・通報装置の設備を完備している。停電時に炊飯できるようカセットコンロを準備。同法人内の連絡体制も整えている。停電時の照明が課題。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に配慮している。ミーティング時などに皆で注意しあい、話し合いを行っているが、出ていない職員もみられる。	「個人の尊重」をホームの理念に掲げ、丁寧で分かりやすい言葉遣い、会話する際は目線の高さを合わせる等、接遇面での配慮を行っている。又、トイレ誘導は他者に悟られないようにさりげなく、入浴時は同性介助の希望に応じる、申し送りは事務所内で行う等、プライバシーにも注意を払っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようなオープンクエストやこまめな声掛けに努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の思いや体調、本人のペースに合わせ自由に活動しているが、居室で休んでばかりにならないよう声掛けしている。		

43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある美容院がある入居者には家族の協力にて利用されたり、近隣の理髪店を利用している。本人の希望があれば、ホームで散髪する方もおいでる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは個々に合わせ形態も状態に合わせている。行事食(正月のおせち・七草・恵方巻・お彼岸・ひな祭り・土用の丑の日・ながし素麺・外食会・クリスマス会・年越しそば)やホームで採れた野菜、朝市などで購入した新鮮な魚を提供しており、普段とは違うたのしみのある食事を提供している。今年度はコロナウイルス感染のため外食は中止。代替としてオードブルの取り寄せを実施。	スーパーや朝市で購入した旬の食材や畑で採れる野菜等を用い、季節感ある手料理を提供している。家事が得意な方には下準備・盛り付け・茶碗拭き等で役割を担ってもらっている。食事が楽しみとなるよう、季節毎の行事食(寿司パーティー、鍋パーティー、オードブル取り寄せ等)にも力を入れている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は献立表を確認し、同じ食材やメニューにならないよう配慮している。夏場はイオンサポート飲料の活用と水分は出来る限り摂っていただけるよう好みの水分を提供している。体重に応じて食事量の調整。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人声掛けし口腔ケアを実施している。義歯の洗い残しがある方は後で職員が洗いなおし対応している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する入居者には排泄表に記録し、リズムや行動を把握し適宜誘導を行なっている。また日中は必ずトイレにて排泄を行なっている。1名、夜間の転倒防止の為ポータブルトイレを使用。	日中は「トイレでの排泄」を基本としている。誘導が必要な方には個々の排泄パターン・サイン(急に立ち上がる等)を見極め、適宜お誘いの声をかけている。利用者の希望・生活歴に応じ、ポータブルトイレも活用している。	

48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を目標（特に朝食）とし、牛乳の提供や便秘気味の方には朝の汁物に食物繊維を入れ、水分と運動を促している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日としている。入浴日は4日間設けており当日の体調や気分に合わせている。同性介助を希望される方が増えてきたため勤務表作成上配慮している。医師からの指示がない方に対してはゆっくり時間をかけて入浴している。入浴剤の使用や季節に応じて菖蒲湯、柚子湯を提供している。	週に4日お風呂を沸かし、利用者個々の要望（一番風呂、湯温、湯に浸かる時間等）に沿った入浴を支援している。数種類の入浴剤を用いたり、昔ながらの季節湯（菖蒲湯、ゆず湯等）を行っている。入浴を拒む場合は無理強いせず、別の日に改めてお誘いしている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室、リビング、畳、ソファなど本人が居たい場所、休みたいところでそれぞれ自由に過ごせるようにしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は職員が管理している。服薬時は必ず確認しており、チェック表にて誰が介助したかチェックしている。また、個人ファイルに薬剤カードを綴っており、いつでも見れるようになっている。内服変更時は申し送り及び、往診ノートに記入、各自確認して症状の変化に注意している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格や生活歴を踏まえ、個々にあった役割を支援している。昨年より畑の拡張、種植え、草むしり、収穫の実施。パズルや計算問題の充実。タブレットで脳トレアプリの活用。		

53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように 支援している	コロナウイルス感染予防の為、外 出は散髪時のみ。	コロナ禍の現状でも散歩、畑仕 事、草むしり、ウッドデッキでの 日向ぼっこ等、戸外に出る機会を 設けている。平時は季節感を味わ うドライブ・外出（紅葉狩り、足 湯スポットへ等）も行っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援して いる	お小遣い帳にてホームで管理し ている。買物時本人より希望され るお菓子、果物、パン、消耗品を 購入したりしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	本人の希望で電話することもある が、「家族より電話させないで ほしい」と要望される方があり調 整している。家族からの電話には 直接話ができる方はしていただ き、難聴の方には職員が間に入る ことでやりとりを行っている。R3 年 12 月よりタブレット端末を使 用したりリモート開始。		

56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう、玄関に季節に応じた花や飾りつけを行っている。天気の良い日はウッドデッキにて日向ぼっこを行っている。	利用者が快適に過ごせるよう、温度・湿度管理に配慮したり、加湿器・空気清浄機（複数台）を設置している。日当たりの良いリビングの大きな窓から自然の風景（山の景色、畑の様子等）が眺められ、季節感を十分に味わう事が出来る。リビングから居室に向かう廊下に腰掛ける場所を設け、他者と離れて寛いだり、仲の良い人同士で会話を楽しむ空間を確保している。ホーム内の Wifi も整備されている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースと居室は別であり、プライバシーには配慮されている。気の合う入居者の方は居室に訪問し談笑されている。		
58		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をお願いしているが、家族の思いで持ち込まれない方や、本人が外してしまうため設置していない居室もある。本人の動線を配慮し配置に努めている。	居室はリビングと離れた場所に位置しており、プライバシーが保てる造りとなっている。居室で快適に過ごせるよう、使い慣れた物（テレビ、身の回りの物、毛布等）や安心出来る物（家族の写真等）を持ちこんでもらっている。利用者個々の動線を考慮し、家具等を配置している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在居室の入り口に名札を掲示している。居室が分からない入居者の方がおいでするため。職員の呼び出しコールについて、理解のできない方には安全に配慮している。また転倒の危険がある方には予防センサーを設置している。		

目標達成計画

事業所名： グループホーム やくしの里

作成日： 令和 3 年 4 月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	利用者の生命に関する緊急事態（誤嚥・窒息時・心肺停止時）に迅速、適切に対応できるよう、計画的・継続的なロールプレイ訓練の実施。	職員全員が緊急事態に冷静に対応できる。	ミーティング時を利用し緊急事態に対応出来るロープレ訓練を年 2 回以上実施する。	12 ヶ月
2	37	近隣在住の施設職員が少数の為、近隣地域に在住している法人職員全体の応援体制の整備が必要。	法人に対して応援職員の選抜と依頼。緊急事態に対応出来る職員を増やす。	法人より北大吞地区、南大吞地区より各 1 名の応援職員を確保。行方不明時、災害時でのバックアップが出来るようマニュアルの作成。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

V たかしなの里（小規模多機能型居宅介護施設）

令和2年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしの里 1

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
フレイル（身体的・精神的・社会的衰弱を予防する - 筋力チェックとリハビリ（握力・歩行速度） - 低栄養の改善と口腔、嚥下機能のリハビリ ① ご利用者様のADL維持向上や筋力アップが出来るよう運動の機会を増やし成果が見えるようにする ② 栄養、身体活動を通じて『生活の質』を守り健康で元気に過ごしていただく - 地域との関りを増やす - 地域行事への参加	- 施設内での歩行練習を毎日実施 - 日々の百歳体操の実施 - 食事前の体操、嚥下体操 - 年2回筋力測定 - 旬の具材を取り入れておいしい栄養バランスを考えた家庭料理の提供 - 低栄養のご利用者様には栄養食品の提供 - 施設で地域の方たちとの交流の機会を作り楽しんでいただく - 地域の行事やイベントに積極的に見学や参加をする。 - 四季のドライブの実施	A	- 日々の歩行訓練、食事前の（嚥下）体操や午後からの百歳体操を行っている - 年2回の筋力測定（握力・5メートル歩行）の実施 - 四季のドライブの実施 花見ドライブ、能登島ドライブ、灘方面ドライブ、紅葉ドライブ（城山・コロサ方面） - クリスマス会など 職員による唄や舞踊など季節ごとにイベントを実施した。 - ビデオ忘年会（ビデオレター） DVDをご家族へ配布 （内容：日々の様子、行事やイベント、職員の挨拶等） - 旬の具材を取り入れておいしい栄養バランスを考えた家庭料理の提供ができた。	- 日々の運動やレクリエーションを工夫し楽しく過ごしていただく。 - コロナ渦の状況を見ながら出来る範囲で外出の機会を増やす - 筋力測定は（握力・5メートル歩行）3回実施 - 食後の口腔ケアの徹底

※評価について ⇒自己採点方式 （100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下）

令和2年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしなの里2

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
認知症・障害を持つ方への対応 ・ 認知症や障害の理解 ・ 個々の状態に寄り添うサービスの提供	・ イベントの企画時に地域の障害施設の方を招待するなど交流を図る。 ・ 担当職員が寄り添いその方が本意に過ごしていただける居場所づくりを心がける	B	・ コロナ感染拡大により地域の障害施設との交流は出来なかった。 ・ 担当職員による声掛け、会話観察を心がけていた	・ 居心地の良い施設の提供 ・ ユマニチュードによるケアへの取組み
接遇の見直し ・ より良い人間関係の構築（ご利用者・ご家族・職員） ・ 地域に選ばれる介護サービス・施設の提供	・ 認知症、接遇研修の実施や事業所外の研修に積極的に参加する ・ 自己評価の取り組み ・ 個人面談の実施 ・ 研修の推奨	B	・ 朝の職員打ち合わせに時間をかけ共有を行った。 ・ 昼休みを利用し DVD での勉強会を実施	・ 業務体制、事業体制の見直し 利用満足度調査の実施

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和2年度年間行事等事業実施報告

たかしなの里

月	事業（行事）	地域交流・ボランティア	見学対応・職員研修
4月	お花見ドライブ （吉田、直津、希望が丘。城山、東部中）		
5月	新緑ドライブ （和倉・能登島方面）		
6月	菖蒲湯		
7月	七夕まつり 安浄寺お参り シェイクアウトいしかわ参加		
8月			
9月	ドライブ（灘浦海岸方面） 敬老会 おはぎ作り		
10月			七尾市長選期日前投票
11月	紅葉ドライブ（城山・多根）		
12月	クリスマス会 ゆず湯 ビデオレター（DVD）忘年会		
1月	正月遊び 法話		
2月	バレンタイン ドライブ（灘浦海岸方面）		
3月	雛祭り おはぎ作り		
その他			

令和２年度 事業所内研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
8/7	身体拘束廃止勉強会	地域交流ホール	2 人
10/8	手指衛生と個人防護具	地域交流ホール	3 人
11/24	感染対策！ 「介護職員のためのそうだったのか」	たかしなの里 デイルーム	全職員

令和２年度 事業所外研修実績

日 付	研 修 名	実施場所	参加者数
1 2 月	認知症高齢者グループホーム初任者研修及び 小規模多機能型居宅介護初任者研修	資料研修	村山 静

令和２年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 緑会	代表者	円山 寛人	法人・事業所の特徴	法人の理念「仁愛・信頼・貢献」を基に利用者個々の「思い」や生活ペース、家族、地域との繋がりを大切にした支援に取り組んでいる。複数の看護職員の配置に加え、母体（医療法人や社会福祉法人）の充実したバックアップ体制があり、利用者・家族の安心に繋がっている。
事業所名	たかしなの里	管理者	円山 徹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	0人	2人	0人	0人	2人	0人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者様の居場所になれるよう会議やミーティング等で情報の共有を行い支援する。 ご利用者様に筋力を維持して頂くよう日々の体操や歩行訓練を行い定期的な測定を行う。	計画作成者からの情報提供やミーティング等で目標に沿った支援が出来た。 フレイル予防として、握力・歩行速度のみえる化に取り組んだ。 全員で自己評価、事業所評価を行った。	コロナ禍にあって計画通りにならない中、出来ることを工夫し利用者の特性を見出してニーズにあったサービスの提供をされている。また、具体的な評価や改善計画となっている。	委員会や研修で知識・技術の向上を図ったり、ミーティングやコミュニケーションアプリで情報共有することで、お互いに意見の言いやすい環境を作り職員全員で取組みや結果について評価をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者様、職員をはじめ誰もが居心地が良くなる施設作り。 プランターに花を植えてご利用者様に楽しんでいただく。 定期的に窓ガラスや外壁の清掃を行う。 広報誌の活用で地域に発信	七夕やクリスマスなど四季折々にイベントを開催し職員による唄や舞踊ショーでご利用者に楽しんで頂いた。 年間を通して、プランターや季節感を取り入れた壁面を作った。 定期的に窓ガラスや床のワックスがけを行なった。	用事で伺った時、いつもきれいで季節感のある施設作りがされていて利用者は楽しみにしていると思われる。 家族向けビデオレター(DVD)で居心地の良い場所になっていることが確認出来た。	ユマニチュードによるケアに取り組んで、居心地がよく安心して過ごしていただく環境を作る。 プランターや施設内外の清掃できれいな環境作りに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域コミュニティーセンターや近隣の施設と連携を図り地域の福祉活動の支援を行う	新型コロナウイルス感染拡大により地域障害施設との交流やコミュニティーセンター、学校などに見学や参加が出来なかった。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との関わりがなかなかもてなかったことが残念であった。 近所の人と車で出会った場合軽く挨拶した方が良いのでは。	コミュニケーションアプリやホームページ、広報誌を通じて施設での取り組みを情報発信していく。 地域で行事やイベントがあれば積極的に見学や参加をする。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご家族様や地域の方々と連携を密にして安心して今まで通りの生活が出来るよう支援する。 地域の行事や四季折々のドライブなど積極的に参加したり見学をする。	今まで培ってきた人間関係が途切れることなく、地域での暮らしを継続出来るように、ご家族と役割分担しながら、馴染みの理美容店や病院、薬局への通院・外出介助を行った。	期日前投票の支援・生活での支援や、ドライブなどコロナ禍においても外出機会を増やし出来る範囲でされている。利用者の日常生活を把握する事が、本人・家族の支援につながるのではないかな。	軒下マップを利用して、本人と繋がりのある資源（人・場所・物・機能）を整理し施設が関わっていない時間の地域との繋がりを見える化する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で事例検討を行うなどしてご家族様をはじめ委員から知恵やご指導を頂き改善に努める	ご家族向けに作った利用者の屋号とお顔、1年間での日々の様子や行事・イベントそして職員のメッセージを入れたビデオレター(DVD)を見ていただいた。	取組み状況を丁寧に説明されている。 地域においてもいろんな課題があり、対応などこの会議とともに話し合い学ぶ機会にしていきたい。	ご利用者・ご家族が安心してご利用いただけるよう満足度調査の結果や事例などを会議で検討し改善していく。 地域へ発信できる会議の場としていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	施設での防災計画や訓練について運営推進委員にもっと知っていただく。 災害時には施設で出来ることを運営推進会議で検討していく。	年2回の実施計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、地域との連携は行わず職員だけで1回のみ避難訓練となった。	職員の研修・訓練が重要であり、また地域の方々との連携が重要である。 防災・災害対策がこの地区での参考になるよう取り組んでほしい。	災害時には施設で出来ることを運営推進会議で検討していく。 施設での取り組みを地域の方にもっと知っていただく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
------------------	-----	----------------------------

1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本
-------------------	------	---

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	10	7	0	0	17

前回の改善計画	初めてご利用される方に、スタッフ全員が情報を共有し、笑顔で接して挨拶、会話、声掛けを通じて不安なく居心地のよい場所を提供出来るよう努める。
前回の改善計画に対する取り組み結果	- サマリーや送り書、ミーティング等で情報が共有出来ていた。 - 声掛けや会話に笑顔で接するよう心がけ、また他の利用者さんとの席間にも気をつけて馴染んでいただけるよう取り組んだ。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	10	7	0	0	10
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	7	8	2	0	17
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いの声掛けや気遣いができていますか？	10	7	0	0	17
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	9	6	2	0	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 介護医療連携用紙、施設サービス計画書、個別サービス計画書等で情報共有することで、ご本人やご家族の情報やサービスを把握し情報共有出来ている。またミーティングや掲示板を通じて再確認している。 - コミュニケーションアプリで事業所の様子を情報発信することで、ご家族から信頼して頂けるよう努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
- 口頭での引き継ぎは出来ているが、記録として残していないことがあり、統一したケアが不十分だった。 - ミーティング時に欠席の場合や詳細な申し送りが分からない場合があった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
引き継ぎ事項等のミーティングの内容を記録し、スタッフで共有する。	

事一①

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	13	0	2	17

前回の改善計画	・ 担当職員制を活かして本人の目標が叶えられるよう努力する。 ・ いつまでも元気で過ごしていただけるよう、食事の管理と筋力アップに努める。
前回の改善計画に対する取組み結果	・ 栄養と季節の物を取り入れた手作りの料理を日々提供して「おいしい」と喜んでいただいているとともに利用者に合わせた栄養管理を行っている。 ・ 百歳体操、歩行訓練、嚥下体操を日々行っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？	2	12	3	0	17
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	2	13	2	0	17
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかめわりができていますか？	3	12	2	0	17
④	実践した（かめわった）内容をミーティングで発言し、振り返り次の対応に活かしていますか？	3	12	2	0	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ 日々の関りの中での気づきを計画作成担当者に情報提供し多職種で支援方法について見直しを行っている ・ 支援計画に基づいた支援ができているか日々評価をすることで目標に沿った関りが出来ている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
・ 担当職員制が活かされていない。 ・ 時間に制約があるためかミーティングや職員会議での発言が少ない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
・ 担当制を活かし利用者お一人おひとりの特性を見出して個々の目標が叶う取組みを実践する。 ・ 質の高いサービスを実施する体制を構築するため、担当利用者の心身の状況等に係る基本的な情報（口腔・栄養を含む）を把握する。	

事-②

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
3. 日常生活の支援	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清西・畠山・扇・岩本

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	13	1	0	17

前回の改善計画	- ご利用者様の筋力維持に日々の体操や歩行訓練を行い、定期的な測定による管理を行う。 - 利用者様の特徴や癖を汲み取りながらその方に応じた付き合い方を行い支援する。
前回の改善計画に対する取り組み結果	- ご利用者様の筋力維持に日々の体操や歩行訓練を行い、定期的な測定による管理を行っている。 - 人の気持ちや体調の変化を日々のミーティングで話し合い対応している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？	1	8	6	2	17
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排泄等の基礎的な介護ができていますか？	8	8	1	0	17
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	5	7	5	0	17
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	6	10	1	0	17
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	8	7	2	0	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- ご本人の体調変化に気づいた場合、適切な対応ができており、医療機関との連携が図られている。 - 日々の関わりの中での本人の声にならない声を計画作成担当者へ情報提供している。 - スタッフで情報交換を行い、日々のスケジュールを進めながら個々に応じた対応をしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
- ご本人の今の生活が重視されており、以前の暮らし方についての情報収集が不足している。 - ご利用者に合わせた対応、介護技術は職員によりばらつきがあり統一されていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
- 日々の関わりの中での本人の声にならない声を経過記録に明記しチームで共通理解する。 - 筋力チェックとリハビリを実践し、フレイル（身体的・精神的・社会的衰退）を予防する。	

事一③

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
------------------	-----	----------------------------

4. 地域での暮らしの支援	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本
---------------	------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	13	1	0	17

前回の改善計画	ご家族様や地域の方々との連携を密にし、訪問や地域の方の協力などで安心して今まで通りの生活が出来るよう支援する。
前回の改善計画に対する取組み結果	今まで培ってきた人間関係が途切れることなく地域での暮らしを維持できるように家族と役割を分担しながら馴染の理美容店への行き通い、馴染の病院や薬局への送迎支援を行っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等理解していますか？	4	13	0	0	17
②	本人と、家族、介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	7	10	0	0	17
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	3	7	6	1	17
④	本人の今の生活に必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	3	8	4	2	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 今まで培ってきた人間関係が途切れることなく、地域での暮らしを継続出来るように、ご家族と役割分担しながら、馴染みの理美容店や病院、薬局への通院・外出介助を行った。 - 計画作成担当者からの情報が掲示されスタッフ間で統一出来ている。 - ご利用者とコミュニケーションをとり、一人暮らしの方への訪問をすることで利用日以外の日常生活での変化を知ることが出来ている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
新型コロナ感染拡大により、地域交流や遠方に住むご家族との関りが出来なかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
軒下マップを利用して、本人と繋がりのある資源（人・場所・物・機能）を整理し施設が関わっていない時間の地域との繋がりを見える化する。	

事-④

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	11	6	0	0	17

前回の改善計画	- ご利用者様の取り巻く状況に合わせて、「通い」「訪問」「泊り」サービスを柔軟に対応していく。 - ご家族様や地域の方と連携しあって支援する。
前回の改善計画に対する取組み結果	- 悪天候による利用の変更、自宅での転倒等々その都度適切な支援ができています。 - ご家族の要望や急な利用変更にも柔軟に対応している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たちの事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	6	9	1	1	17
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	15	2	0	0	17
③	日々のかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	10	7	0	0	17
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	14	3	0	0	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 地域的に社会資源は乏しいが地域資源を利用している利用者には継続して利用できるように支援している。 - ご家族の要望に対応できない時には代替サービスの提案や情報提供を行っている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
新型コロナウイルス感染拡大により地域行事に参加出来なかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
- その日、その時のご本人の状態・ニーズに合わせて、「通い」「訪問」「泊り」サービスを柔軟に対応していく。 - ご家族様や地域の方と連携しあって支援する。 - 緊急やむを得ない場合など一定要件を満たした場合に、登録者以外の短期利用（7日（やむを得ない場合は14日）だけ限定的に短期利用可能）を受け入れる。	

事-⑤

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
------------------	-----	----------------------------

6. 連携・協働	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本
----------	------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	1	3	11	17

前回の改善計画	- 地域の方たちに気軽に施設に立ち寄って貰える施設作りをする。 - 地域の活動に積極的な協力と参加をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	新型コロナウイルス感染拡大により地域の活動に見学や参加することが出来なかった。また施設に寄っていただくことも叶わなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	6	6	3	2	17
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	6	6	2	3	17
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	1	2	5	9	17
④	登録者以外の高齢者や子供等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	0	6	10	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 他のサービス機関とはサービス担当者会議や退院カンファレンス等の場面で連携を図っている。 - 市主催の事業者連絡会や包括支援センター主催の地域ケア会議に代表職員が出席し話し合った内容を他職員に周知している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
新型コロナウイルス感染拡大により実施予定だった行事やイベントの中止が余儀なくされた。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
コミュニケーションアプリやホームページ、広報誌を通じて事業所の取組みを情報発信していく。	

事一⑥

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
7. 運営	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	5	7	3	17

前回の改善計画	- 職員が意見の出しやすいように、話し合える環境作りと職員面談などを実施して施設改善に努める。 - 地域での取り組みに積極的に協力・連携し交流を図る。
前回の改善計画に対する取組み結果	新型コロナウイルス感染拡大により、地域活動には殆ど参加できなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか？	3	7	7	0	17
②	利用者、家族、介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	5	11	1	0	17
③	地域の方から意見や苦情を運営に反映していますか？	5	10	2	0	17
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行なっていますか？	2	6	6	3	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
- 運営推進会議は定期的に開催しており、頂いた意見を基に事業所の方針を話し合い改善に努めている。 - 苦情はなかったが要望等についてはすぐに対応ができていた。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
- 職員会議で運営について意見をする場を設けているが自発的な発言が少ない。 - 地域の施設との協働活動を検討していたが新型コロナウイルス感染拡大により延期している。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
- ミーティングやコミュニケーションアプリで情報共有することで、お互いに意見の言いやすい環境を作り職員全員で取組みや結果について評価をする。 - ご利用者・ご家族が安心してご利用いただけるよう満足度調査を実施し、結果や事例などを会議で検討し改善していく。 - 災害時に施設で出来ることを運営推進会議で検討していく。	

事-⑦

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
------------------	-----	----------------------------

8. 質を向上するための取組み	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本
-----------------	------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	5	8	3	17

前回の改善計画	・ スタッフで研修内容や研修回数を個々で決め実行する。 ・ 外部研修について、個々で受けたい研修を決めて受講するなど希望があれば出来る限り奨励する。 ・ スタッフで必要である研修があれば受講させる。
前回の改善計画に対する取組み結果	・ 今年度は外部研修には殆ど参加出来なかったが事業所内で行なった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	3人	2人	6人	6人	17人
②	資格取得やスキルアップのための研修会に参加できていますか	2人	1人	7人	7人	17人
③	地域連絡会に参加していますか	1人	2人	4人	10人	17人
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3人	4人	4人	6人	17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ 朝のミーティングや会議で、日々のご利用者様の様子やアクシデント、インシデントなど、報告・検討を行い事故に繋がらないよう努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
・ 外部研修の受講計画に対し、実行がされなかった。 ・ 臨時職員やパート職員が多いため、研修時間がうまく取れなかった。 ・ 年に数回のグループ内研修が行われたが、ほとんどの職員は参加しなかった。 ・ 研修参加やスキルアップに関してはスタッフの考えや意識の個人差が大きい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
・ スタッフで研修内容や研修回数を個々で決め実行する。 ・ 外部研修について、個々で受けたい研修を決めて受講するなど希望があれば出来る限り奨励する。 ・ スタッフで必要である研修があれば受講させる。	

事-⑧

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和3年1月15日（ 17:30 ～ 19:30 ）
------------------	-----	----------------------------

9. 人権・プライバシー	メンバー	圓山・辻・白山・萩原・稲本・岡田・寺田・岡村・本田 村山・中山・北川・北村・清酒・畠山・扇・岩本
--------------	------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	12	1	0	17

前回の改善計画	・ 成年後見人制度の勉強会を実施する。 ・ 人権についての勉強会を実施する。
前回の改善計画に対する取組み結果	・ 職員会議等で成年後見人制度の勉強会をし、理解し合えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	15	2	0	0	17
②	虐待が行われていない	17	0	0	0	17
③	プライバシーが守られている	8	8	1	0	17
④	必要な方に成年後見制度を活用している	10	6	1	0	17
⑤	適正な個人情報の管理ができている	15	2	0	0	17

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ ドラックロック、フィジカルロックはしていない。 ・ 同性介助を希望されるご利用者には、意向に沿った支援を行っている。 ・ 必要な方に成年後見人制度を活用しており、今後も希望者がいれば支援を行なえる体制にある。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
・ スピーチロックの100%廃止には至っていない。 ・ ご利用者の前で他のご利用者の私事を話したり、排泄に関する事を話していることがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字程度)
・ 虐待（身体拘束を含む）の防止のための対策を検討する委員会（虐待防止検討委員会）を定期的に開催する。 ・ 虐待の防止のための指針を整備する。 ・ 虐待の防止のための研修を年2回以上実施する。	

事一⑨